

学校教育目標 「やる気いっぱい やさしさいっぱい 元気いっぱい 蒔田つ子」



まいた

令和4年度

10月号

令和4年9月29日

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/maita/>

実り多き秋に

副校長 服部 可奈

今年は9月半ばを過ぎても気温の上がり下がりが激しく、不安定な天気の日が多かったですが、「暑さ寒さも彼岸まで」と言う通り、少しずつ朝晩過ごしやすくなり、ほっとしているところです。蒔田小学校の田んぼでは、稲が頭を垂れ、収穫の秋を迎えようとしています。また、正門近くには、数は少ないのですが彼岸花が咲いており、秋を感じることができます。

さて、彼岸花と言えば思い出すのが、4年生の国語の教科書に載っている「ごんぎつね」です。彼岸花を使った情景描写がたいへん印象的です。小学生の時に勉強したという保護者の方も多いのではないのでしょうか。この「ごんぎつね」の作者である新見南吉さんの作品に「手ぶくろを買いに」という心温まるお話があります。残念ながら、もう教科書には載っていないのですが、小学校で勉強して以来、ずっと私の心に残る大好きなお話の一つです。ほかにも「そらいろのたね」「チックとタック」など低学年で学習したにもかかわらず、忘れずにいるお話がいくつかあります。私は読書好きの子どもでしたが、本だけでなく教科書のお話を読むのも好きでした。今も国語の教科書には「たぬきの糸車」「スイミー」「白いぼうし」など素敵な作品がたくさん載っています。きっと、子どもたちも大好きなお話だと思います。読書というと、少しハードルが高くなってしまいかもしれませんが、まずは教科書のお話を読むことを楽しむことができたらいいなと思っています。

昨年度、前任校で2年生を担当していた時、「お手紙」を学習した際に「がまくん・かえるくん」シリーズの並行読書に取り組みました。子どもたちは、どんどん読み進め、自分のお気に入りのお話を見つけていました。折しも、先日、5年生が国語の研究授業で読書単元として作家読みに挑戦していました。国語の授業を出発点として、同じ作者の本を読んだり、今まで読んだことのない作者の本を読んだりして、読書の幅が広がるのは素晴らしいことです。5年生の授業を見て、私も改めて重松清さんの本を読んでみたくなりました。子どもたちの読書離れ、活字離れが叫ばれて久しいですが、読書を通して広がる世界や新しく発見することもあると私は信じています。読書でしか得られない楽しみがあるはず。もしかしたら、その1冊が将来につながるかもしれません。蒔田小学校が重点研究で国語に取り組んで今年で2年目になります。国語の授業を充実させるとともに、授業をきっかけに本に親しむ子どもたちが増えることを願っています。

蒔田小学校の調べルームや読書ルームには素敵な本がたくさんあります。スポーツの秋、食欲の秋、芸術の秋とともに、子どもたちが読書の秋を楽しんでくれたら嬉しいです。



5年生の国語の授業の様子